

平成24年度雨漏検査白書

作成：全国雨漏検査協会

〒646-0012

和歌山県田辺市神島台26番32号

TEL0739-24-9846、FAX0739-26-7497

<http://www.aikis.or.jp/~house-dr/>

house-dr@mb.aikis.or.jp

平成25年6月11日作成

全国雨漏検査協会について

当協会は平成7年に工法特許(1964971号)「建造物の雨漏り検査方法」をもとに設立された日本で一番古い団体で検査中心の信頼できる第三者機関です。

現在では雨漏り検査をする団体が他にも沢山できてきましたが、その当時は板金業や屋根などの建築業者が無料で雨漏りを点検し、リフォーム代で自社の売上につなげるという商法で、雨漏りについても「多分ここだろう？」と原因をはっきりつかめないまま修繕するのがほとんどでした。

私どもの検査方法は「光らせて雨漏りを見つける方法」ですので雨漏りしている箇所を特定し、原因をつかむことができます。それにより司法関係者や住宅保証関連会社から多数依頼を受けています。(裁判の紛争処理の鑑定検査も行っていきます。)

「雨漏検査白書」は会員店に24年度の検査についてアンケートをとりグラフにしています。

雨漏りと保険

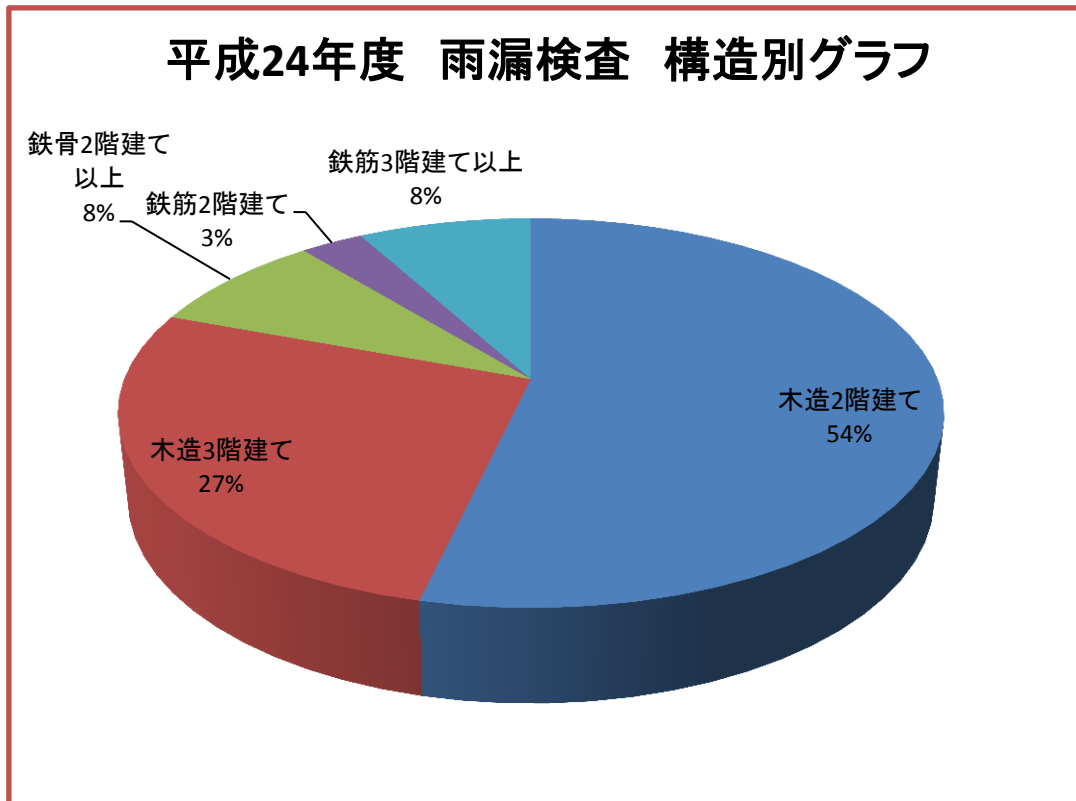
竜巻や雷、短時間に降る急激な大雨など年々増加していますが、雨漏りも人間の歯痛と同じで雨が降ると検査依頼が増加します。台風などの自然災害による雨漏りは火災保険で保障されることがありますが年々劣化して起きる雨漏りは保険がききませんので改めて保証書を見直される必要があると思われれます。

雨漏りと結露の違い

部屋の壁が黒ずんできた場合、一般の施主様は多分不安に思われることでしょう。

漏水症状で外部の瑕疵が原因の雨漏りと外部に原因のない結露の違いは建築のプロでも判定は難しい物です。その為に我々に原因究明の依頼が多くきます。判定基準は企業秘密です。この場では公表できませんが依頼された検査報告書で述べていますのでご覧ください。

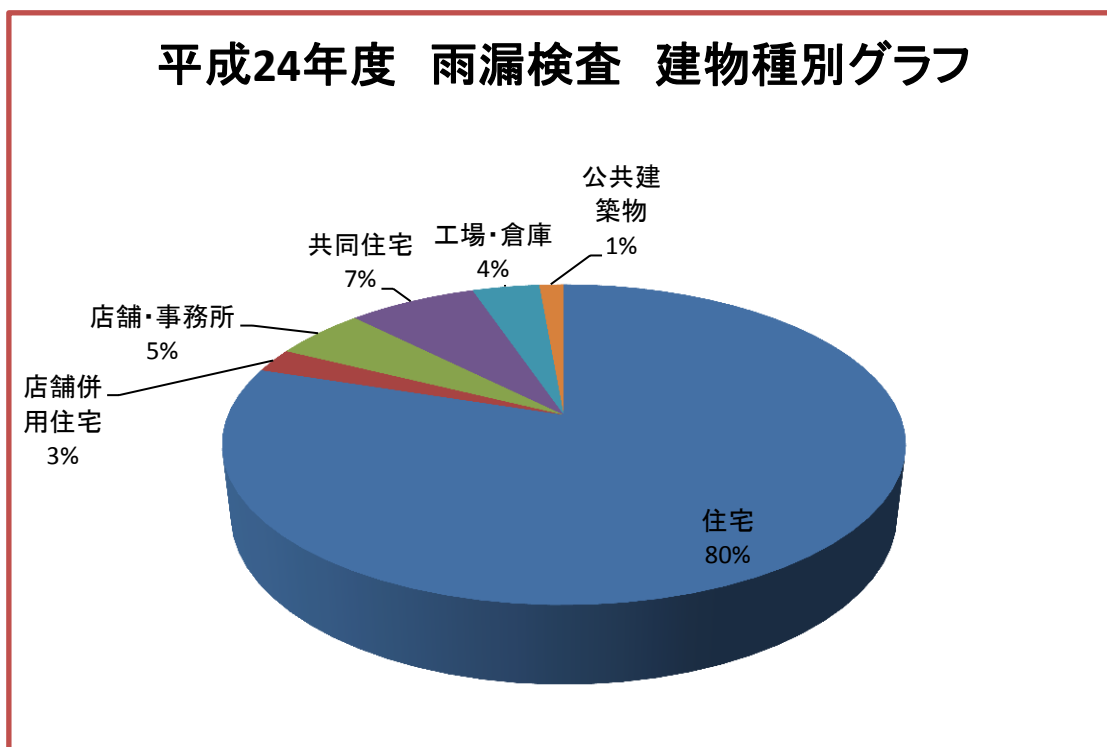
構造別グラフ



アンケートには木造、RC、SRCについて平屋建ても項目にいれていましたが検査依頼はゼロでした。木造2階建てが多いのは建築件数からいっても当然の事ですが建築件数の割合からいえば木造3階建ての検査依頼が多く、狭小な床面積に対し縦長のペンシル型住宅の検査依頼が例年通り多く見受けられました。

今後雨漏りをしない家づくりとして3階建てを建築する場合雨漏り対策を十分考慮する必要があるかと思われまます。

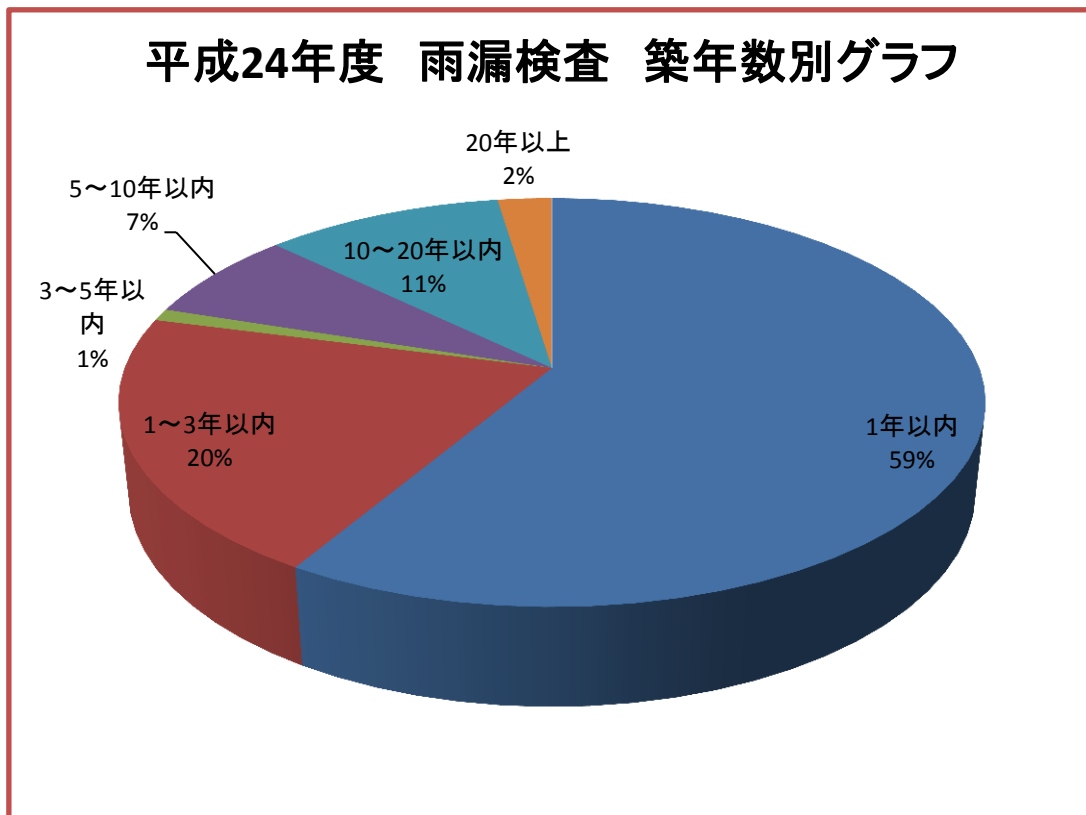
建物種別グラフ



建物種別では一般住宅が圧倒的多数を占めました。

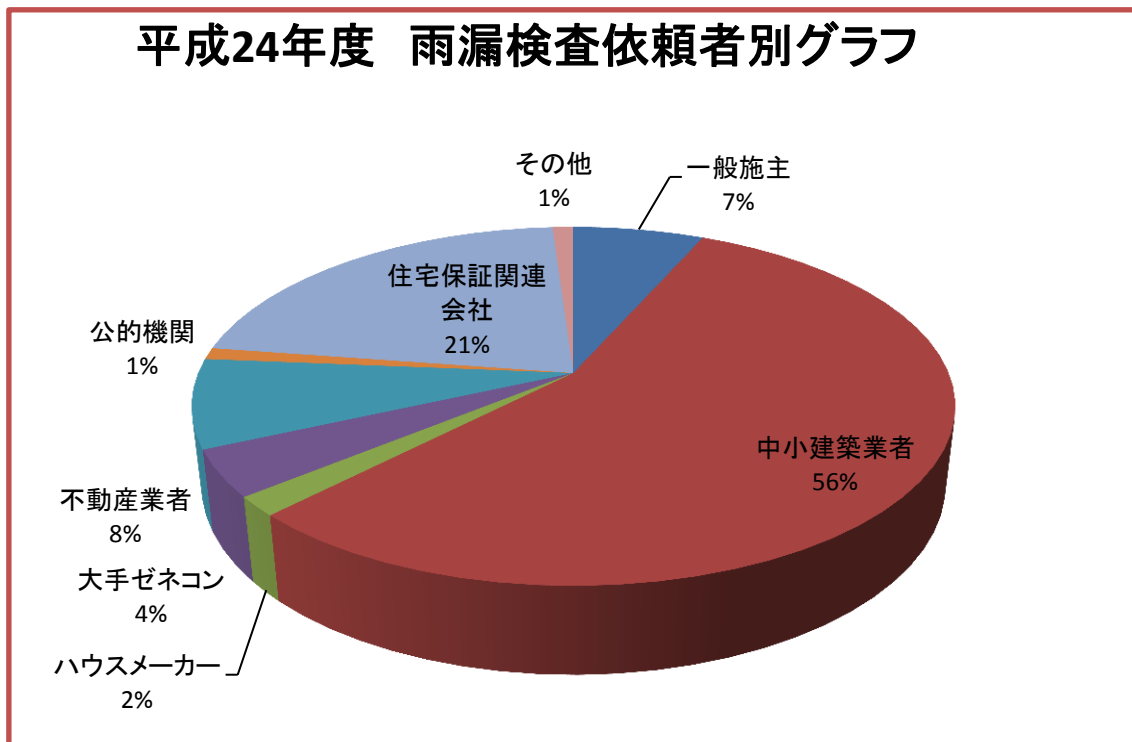
ビル関係を多く検査している関東地区の会員店より東日本大震災の影響による外壁の不具合やクラックが多くあるとの報告がありました。震災後も東北、関東地区では震度3以上の地震が多数あり、これからも十分保守、点検をするべきだと考えます。

築年数別グラフ



検査依頼は新築1年以内及び3年までが80%と大多数になっています。

依頼者別グラフ



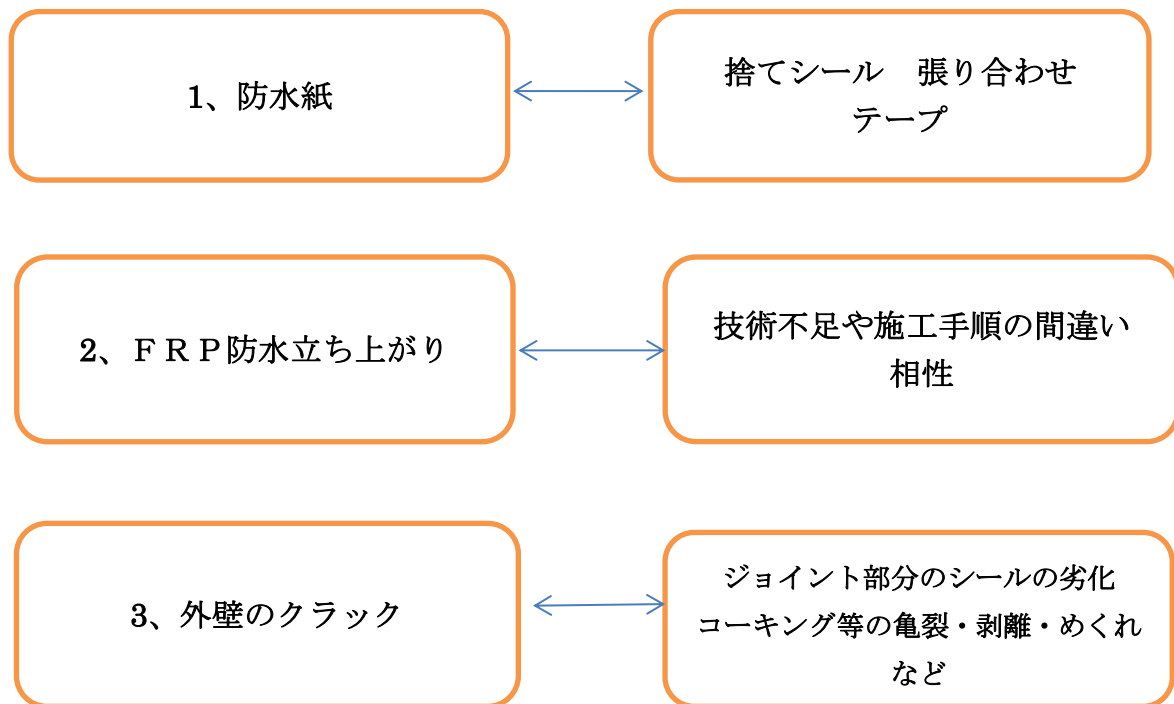
依頼者は中小建築業者がトップになっていますが、協会本部には住宅保証関連会社からの紹介で建築業者からの問い合わせが多く有ります。

「全国雨漏検査協会」の今までの活動が認められているのは有難いことですが、住宅保証関連会社からの直接の依頼も多く会員店の検査技術や検査報告書の書き方等これからもレベルアップに努めていきたいと思っています。

漏水箇所ベスト3

- 1、サッシ廻り 2、下屋取り合い 3、外壁

発生原因



- 4、ベランダ等の笠木の不具合 5、各部位の取合い箇所、6 その他

その他

実際は設立して2年足らずなのに私どもの実績や活動をホームページにそのまま載せて宣伝をしているよく似た名称の団体があります。(訂正するよう申し入れていますはまだ記載されています。)

「HOUSE, Dr!」「全国雨漏検査協会」は登録商標です。全国雨漏検査協会の会員店は必ず「HOUSE, Dr!」を名乗っていますので十分にご確認下さい。